

# 穴水町災害ボランティアセンター 支援報告

---

# 社協の役割



社会福祉協議会は災害時に  
災害ボランティアセンターを設置します

広島県では、被災者の生活支援を第一に考え、「生活をサポートする」という幅広い視点に立ち、「被災者生活サポートボランティア活動」と呼び、センターを「被災者生活サポートボランティアセンター」と呼んでいます。

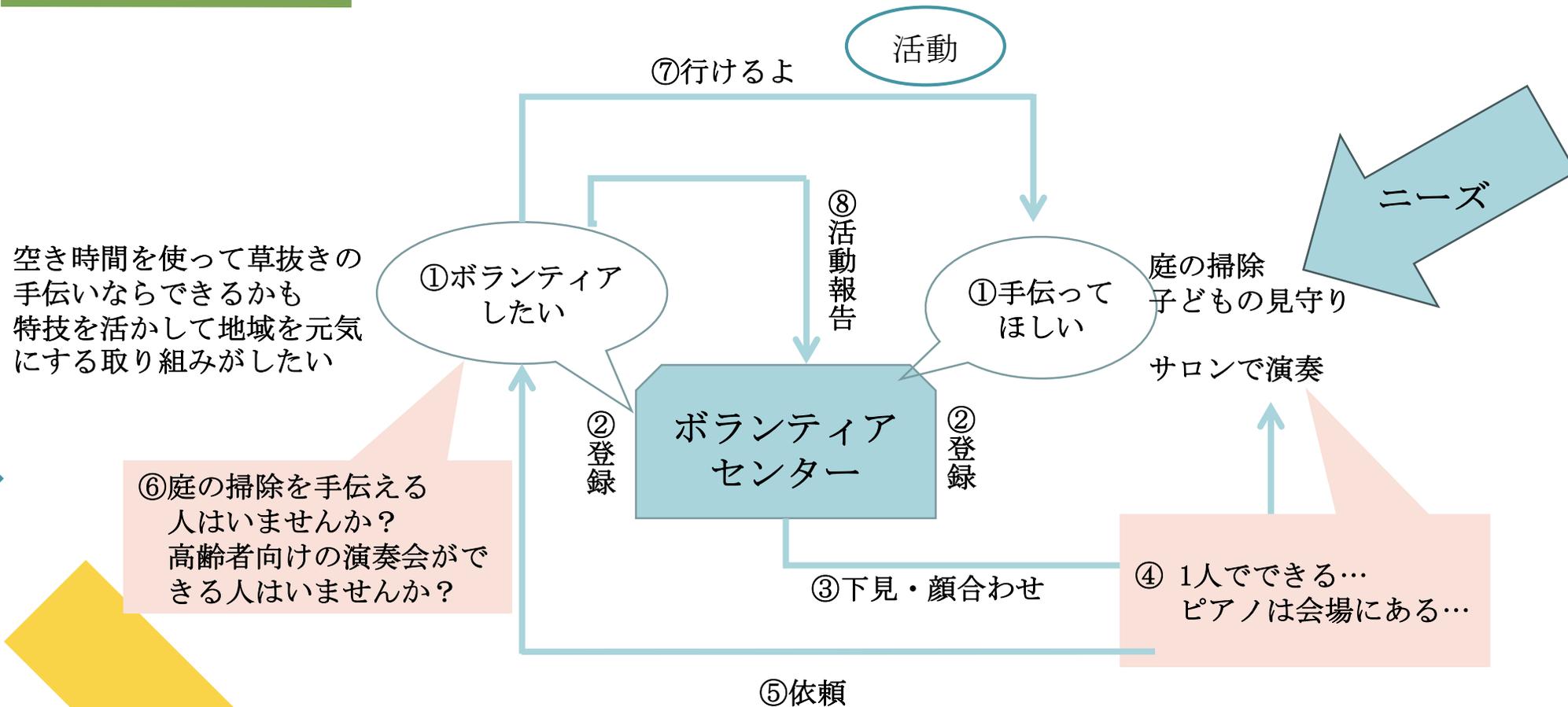
# 社協の役割

## なぜ社協が災害ボランティアセンターを設置するのか

- \* 日頃から地域のさまざまな機関・団体と密接なつながりを持って住民のコミュニティ形成に携わる事業を推進している。
- \* 全国的なネットワークがある。
- \* 行政と連携しつつ民間の機動性・柔軟性を活かして、継続的に取り組んでいくことができる。
- \* 災害発生による混乱や地縁のない避難生活等により、住民のつながりが弱体化し、もともと福祉的な支援を必要とする人々が孤立してしまうことが少なくないことから地域福祉の推進をうたう社協の役割として、災害時の支援にあたることができる。

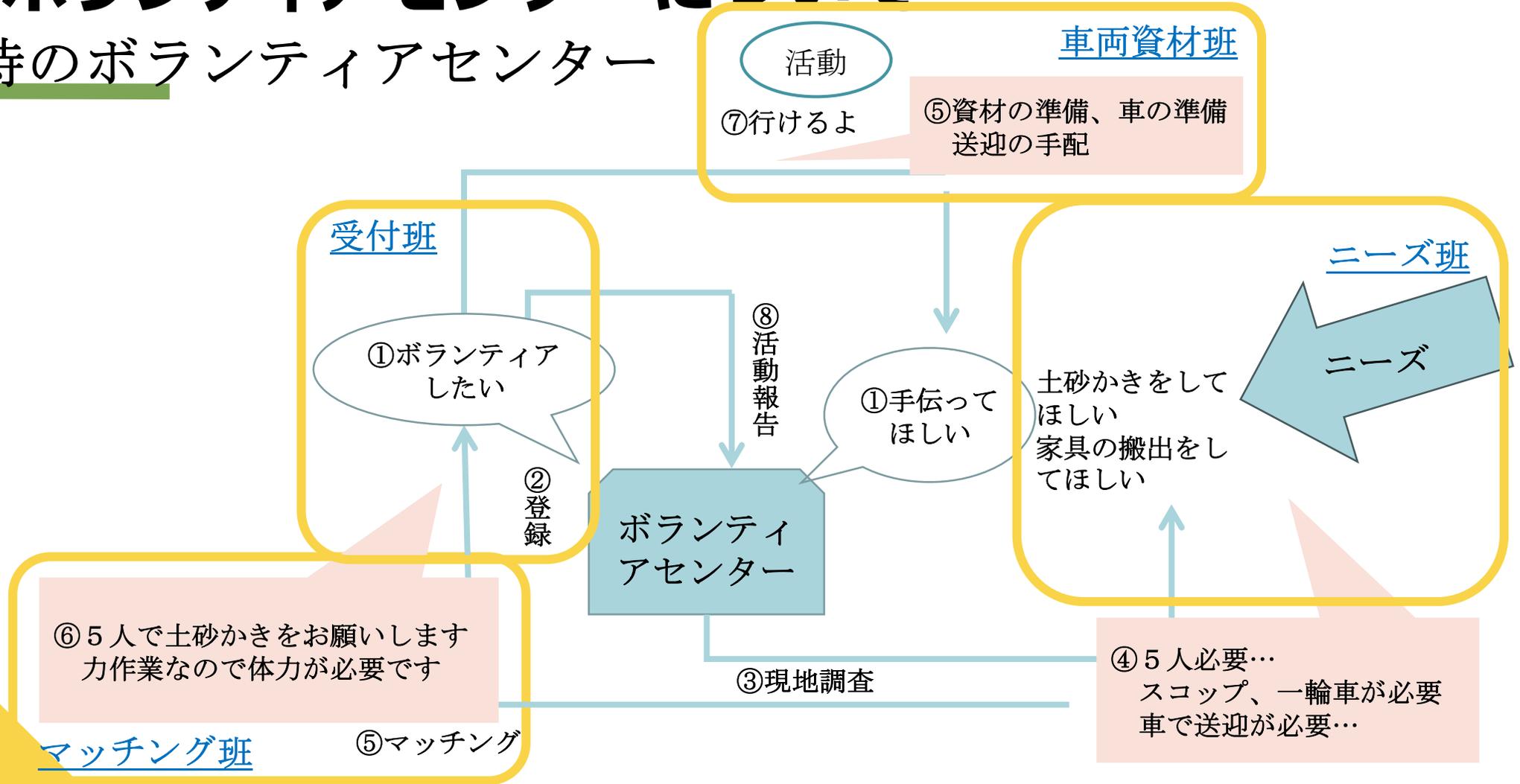
# 災害ボランティアセンターについて

## 通常のボランティアセンター



# 災害ボランティアセンターについて

## 災害時のボランティアセンター



# 穴水町の概要

人口	7,283人、世帯数3,532世帯（令和6年2月1日現在）
面積	約183平方km。東西約30km、南北約15km
位置	石川県の能登半島の中央に位置する（能登半島先端部及び基部からそれぞれ約50km） 金沢市から約90km。
交通	のと鉄道、国道249号線が通じる のと里山海道の終点であり（金沢から約80分）、輪島市、珠洲市、能登町に向かう分岐点である 2003年に能登空港が開港した。空港所在地は輪島市であるが、滑走路の大半が穴水町地内であり、穴水町市街地は空港から最も近い市街地
地形	北部及び西部は能登丘陵の一部をなす。南部は七尾北湾の北辺をなし、波静かなリアス式海岸である。東部は富山湾に面する。町の大部分は、丘陵地及び台地であり、平地は谷あいに点在する。
気候	年間平均気温約13度。年間降水量約2,000mm。1月、2月には降雪があるが、積雪が大人の膝丈を超えることは、まれである。北及び西の丘陵が風をさえぎるため、能登半島では、穏やかな気候であるといえる。
産業	農林水産業が主な産業である。牡蛎貝、ナマコ、メバル、クロダイ、栗などは特産品。まいもん（＝美味しいもの）の里づくりとして、食の集積地を目指している。
市街地	商店街は約1kmにおよび、能登では有数の商業地である。 また、飲食店が多いことも特徴である。 交通の要所であるため、営業所、支店、ショッピングセンターが周辺市町と比較し多いという特徴がある。



# 穴水町社会福祉協議会の概要



さわやか交流館プラウト(町立公民館・図書館併設)

職員数	正規職員 4人 非常勤職員(局長・SC) 2人	
事業	介護保険事業	居宅介護支援事業・生活支援体制整備事業
	子ども子育て事業	学童保育の運営
	権利擁護事業	日常生活自立支援事業 実利用者数3人
	生活困窮者自立支援事業	子どもの学習支援事業・緊急食糧支援
	ボランティアセンター	ボランティアグループ数 32団体(1,163人) ボランティア数 97人 ボランティア連絡協議会 定例会1回 災害ボランティアセンターマニュアル 有
小地域福祉活動	地区懇談会・福祉座談会 住民ニーズ調査の実施 要援護者・要配慮者マップの作成 支援 地域福祉推進委員等研修 生活・介護サービスの実施 ふれあいサロン連絡会の設置 認知症カフェ・つどい 子ども・多世代を対象とした食堂 社会福祉法人連絡会の運営 社会福祉法人との連携による取組み 企業・団体との連携による取組み 福祉機器・用具の貸出 家族介護教室・交流	
	サロン活動(対象者限定なし) 18か所(月1～週2) サロン活動(障がい者) 1か所	
移送サービス	穴水町居住者 60歳以上で下肢が不自由なもの及び75歳以上の高齢者、その他町長が必要と認める者 通院、買い物等の外出支援 片道200円	
民生委員	41人	

# 穴水町災害ボランティアセンター



# 穴水町災害ボランティアセンター



# 穴水町災害ボランティアセンター

## 支援団体

### レスキューストックヤード…

ネットワークで繋がる全国の仲間や、被災地を応援したいと願う市民と共に、地震や水害等によって被災された方々への支援を行うNPO

### 藤田医科大学…

愛知県豊明市にある大学。教職員及び学生ボランティア団体としてVC支援

### なごや防災ボラネット…

災害ボランティアセンターの設置運営を支援するボランティアとして、研修修了者を中心に組織された「災害ボランティア団体」の連絡会

### 支援P派遣…

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の略称。企業・社会福祉協議会・NPO・共同募金会が協働するネットワーク組織

### 中国ブロック派遣…

鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・岡山市・広島市 各社協から支援者の派遣

# 穴水町災害ボランティアセンター

レスキューストックヤード（7～8人）

避難所支援

（足湯・生活環境の整備や企業から提供された簡易ベッドや寝具、衣類等の搬入  
制度説明会・司法書士相談・弁護士による学習会の開催、被災者訪問）



# 穴水町災害ボランティアセンター

藤田医科大学（4～5人）

炊出しボランティア調整

（各種団体からの炊出しボランティア要請に対応。受付、日程調整等）  
避難者の健康チェック及びコロナ患者対応



# 穴水町災害ボランティアセンター

## なごや防災ボラネット (5人)

資機材の管理

(ボランティア活動者への資機材の貸出及び返却時の洗浄等)

## 支援P (1人)

ボランティアセンターの総合調整

(エリアマッチングの調整)

## 中国ブロック派遣 (2人)

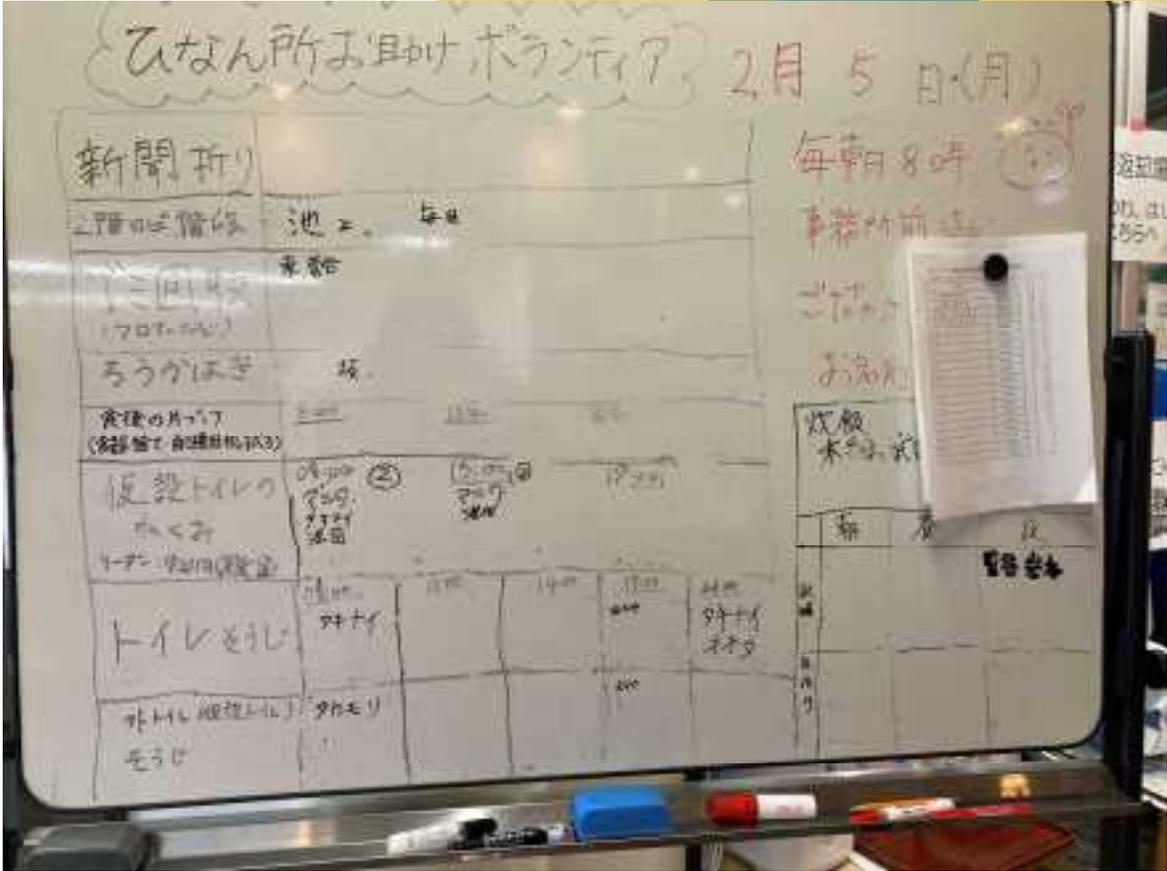
ボランティアセンターの総合調整

(ニーズ受付、現地調査、マッチング、石川県社協への報告等)

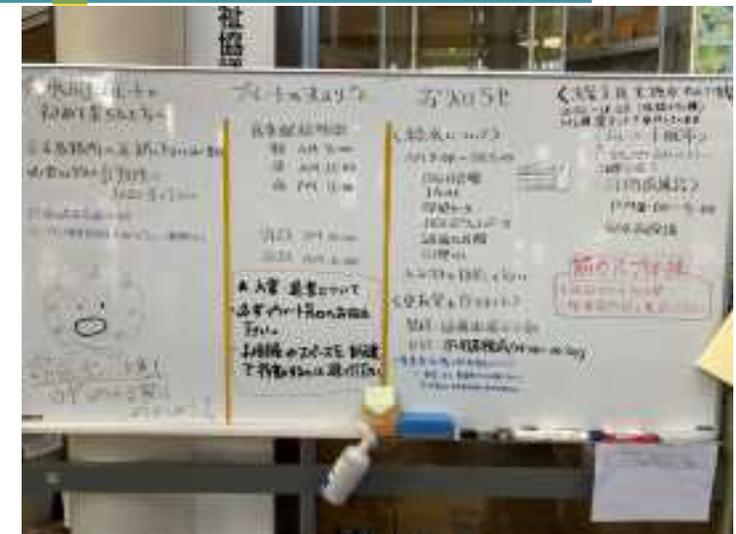
# 穴水町災害ボランティアセンター

避難所運営ボランティア (5~6人)

避難者自らが避難所の清掃及び食事の配膳等



# 避難所の様子



# 避難所の様子





# 被災者の声

- 一人暮らしで片づけを手伝ってくれる人がいない。親戚に助けを求めたが「こっちも大変！」と電話を切られた。
- 少しずつでも片づけているが、途方もない。
- 一日でも早く片づけたい。このままだと気持ちも前に向かない。
- 赤紙が貼ってあるが家の外に出そうにも出してくれる人がいない。
- 赤紙だがタンスの中に必要なものが入っている。タンスを起こしてほしい。
  - 応急危険度判定で赤紙の家 ボランティアは屋内に入れない



応急危険度判定は、大規模な地震のあと2次被害の防止を目的に、建物が倒壊するおそれがないかや、窓ガラスや瓦などが落ちるおそれがないかを判定する制度  
調査は各自治体がそれぞれの判断で実施本部を設置し、「応急危険度判定士」の資格を持つ行政職員や建築士などが行う



# 被災すると

---

一人暮らし(孤児)の世帯

母子世帯・父子世帯

貧困世帯

身体的、精神的障がいがある世帯

地域の中に何らかの支援が必要な人、世帯が増えること



## 社協の役割



# 被災すると

## 地域のコミュニティが壊れること

- 避難所でバラバラになる
- 仮設住宅でバラバラになる
- 復興後バラバラになる
  - 自宅を再建し戻る人
  - 復興住宅に移る人
  - 仮設住宅に残る人
  - 子どもが住んでいる別の町に移る人



## 社協の役割